2026年10月 発行

ほくほくフィナンシャルグループ
Hokuhoku Financial Group, Inc.

海外事務所レポート



中国で話題の「手もみ経済」とは

北陸銀行 法人ソリューション部
上海駐在員事務所
陳　潔

１．はじめに

近年、中国では「手もみ経済（手搓経済）」 という言葉が注目を集めています。これは、個人や小規模なチームが、人工知能やソーシャルプラットフォームなどのツールを活用し、低コストで事業化する新しい経済形態を指します。現地の日系企業の成功例も交えながらご紹介いたします。

２．「手もみ経済」とは

（１）手もみ経済と従来型経済の違い

工場や企業を中心に大量生産を目指す従来型の経済とは異なり、「手もみ経済」は、個人の技術やアイデア、遊休資源を活用し、少人数・低コストで柔軟に展開できるため、より小さな単位での挑戦が可能になります。初期投資が少なく、在庫や固定費を抑えやすい一方、品質や供給量は標準化しにくく、個人の能力や発想、発信力に成果が左右されやすい面があります。従来型経済が「効率・規模・安定性」を重視するのに対し、手もみ経済は「柔軟性・個性・共感価値」を重視します。

【表1】従来型経済 vs 手もみ経済

	従来型経済	手もみ経済
主体	工場、企業中心	個人、小規模チーム中心
生産方法	大量生産、標準化	少量生産、個別対応
初期コスト	高い	低い
販売方法	実店舗、代理店、EC	SNS、コミュニティ、個人間取引
利点	安定供給、効率性	柔軟性、独自性、スピード
弱点	資金・人材・立地条件等の参入障壁が高い	収益が不安定、リスク耐性が低い

（テンセント元宝の情報より上海事務所作成）

（２）市場規模と代表事例

2026年4月時点の「2026中国OPC業界白書」および複数の業界報告によると、中国全土のOPC（One Person Company）は1,600万社以上にのぼっています。実際に、個人や小規模事業者による経済活動が拡大しており、AIの普及によって、専門知識が少ない人でも参入しやすくなっています。下記の成功例のいずれも、「少人数・低コスト・短時間」という手もみ経済の特徴をよく表しています。

【表2】手もみ経済の成功例（AI関連）

カテゴリ	事例	特徴
AIアプリ開発	個人によるAIを活用したアプリの開発	未経験からAIプログラミングツールを用い約1時間でアプリを作成、収益化に成功
AIコンテンツ制作	少人数チームによるAIドラマ制作	低予算（10万元（約230万円））で作品化、映画祭等で注目を獲得
AIハードウェア	少人数チームによるAIローリングマッサージロボット制作	一晩で試作・完成、年間売上1万個以上、売上高2,000万元（約4.6億円）超

（テンセント元宝の情報より上海事務所作成）

（３）日系企業にみる活用の広がり

手もみ経済は、日本企業にとっても、少量多品種の商品開発や現地のクリエイターとの協業に活用できる可能性があります。しかし、現時点で活用している企業は一部であり、AIとの連携はまだ発展途上といえます。

【表3】日系企業における活用例

企業	取り組み内容	期待効果
無印良品（MUJI）	中国チームによる現地開発、小規模工房との連携	少量生産、情緒的価値のある商品展開
日系デパート／セレクトショップ	店内イベントや展示を通じた個人クリエイターとの協業	試作から継続発注までの漸進的プロセスを構築、安定した少量生産
Unicharmなど	フリーデザイナー、イラストレーター、AI制作者へのアウトソーシング	低コストで柔軟なローカル対応

（テンセント元宝の情報より上海事務所作成）

３．おわりに

中国では今、多くの起業家が独自の視点から市場の隙間を見つけ、AIを活用してアイデアを素早く形にしています。参入のハードルが比較的に低いため、小規模事業者でも新しい挑戦を始めやすく、今後もこうした動きは広がっていくとみられます。引き続き動向を注視していきたいと思います。

＜ご注意＞
文中意見は筆者の個人的見解であり、北陸銀行としての見解の反映ではありません。当レポートは作成時点の経済状況に基づき、情報提供のみを目的に作成したものです。記載内容についてはご利用者の判断と責任のもと、ご利用くださいますようお願いいたします。

発行：北陸銀行 法人ソリューション部 グローバルビジネス推進室
〒930-8637 富山市堤町通り1-2-26 TEL（076）423-7111